



がんばり過ぎの生徒へ

過剰適応の 心配

新学期が始まり、生徒の様子はどうでしょうか。特に1年生はいかがでしょう。1学期に特に問題が無くても、それは、本人にとっていっぱいいっばいで、がんばり過ぎのいわゆる「過剰適応」の状態ではなかったでしょうか。中学と違い、通学に時間がかかり、部活動も中学よりも本格化し、各教科からの課題(宿題)の量も増え、難易度もぐっと上がっており、1学期は何とか頑張っていた生徒もいたと思いますが、自分なりの学習習慣が身に付かなかった生徒もいると思います。また、小学校から中学までの地域に住む自分のことをよく知っていた仲間も少なくなった中で、高校という集団の中でどう自分の居場所をつくっていくのか、それぞれが頑張っていたと思います。そして、高校によって、その学校の伝統や文化は大きく違い、「学校風土」というものも生徒にとっては中学との違いを大きく感じていたところではないかと思います。新入生が1学期に乗り越えてきた様々な出来事についてお話しましたが、生徒によっては乗り越えられていない生徒もいます。そういった生徒が、夏休みを終えて、2学期にどんな様子を見せているか、注意深く観察をお願いしたいと思います。



仲間づくり

発達障害のある生徒は、新しいことを受け入れたり、慣れたりするのに時間がかかります。特に仲間づくりは難しいです。私がこれまで関わってきた生徒もそういった事例が多く見られました。中学の時に一緒に行動をしたり、班行動をしたりする生徒がある程度固定化していたので、移動教室やグループ作りの時に自動的にグループ作りや班行動ができていました。高校では、仲間と別れ、声をかけてくれる生徒がいないので、自閉症スペクトラムの生徒などは、急に「ぼっちになった」と感じ、「私は嫌われている」とか「誰も声をかけてくれない、冷たい」などという反応をします。聴覚過敏があったり、自分がおとなしい性格であることに自覚があったりすると「陽キャがうるさい」「あいつら嫌い」と言ったりします。耳からの情報を聞き逃しやすい特性のある生徒は、中学では周りの子と一緒にやっていたら、何とかあったのですが、「ぼっち」なので、一人で間違え、恥をかく体験を繰り返します。「嫌われている」「みんな冷たい」「陽キャがうるさい」「間違えてばかり」が続くと学校が嫌になってきます。発達障害のある生徒は、「嫌だったこと」をいつまでも覚えていることも特性として持っているため、嫌な気持ちを引きずって深めてしまいます。

流れに乗れるか乗れないか

これらの出来事を家で口にするので、保護者は心配になって学校に連絡をしてくることもあります。「高校の友達も先生もうちの子に気を遣ってくれない」「学校は冷たいのではないか」などと言ってくる場合もあります。

こういった事例は少なくありません。多かれ少なかれ、環境が変われば発達障害があってもなくてもそれまでの環境との違い、慣れていたことからの変化を乗り越えなければなりません。新入生の誰もが経験します。うまく流れに乗れるか乗れないかが問題なのですが、比較的発達障害のある生徒はその特性によって流れに乗りそこないがちです。もちろんそれは、がんばったから、がんばらなかったからという問題ではありません。どうしても流れに乗れない生徒が出てきます。一生懸命勉強して合格した学校です。4月には晴れやかな気持ちでいたのに、本人にとっても保護者にとっても、苦しい場面となります。



成長への信頼

少し冷静に考えてみると、人生楽しいことばかりではありません。順調なことばかりではないのです。親は子供がずっと幸せでいてほしいものなのですが、そうは行きません。そこをどう自分の力で乗り越えていくかは今学ぶのです。まずは大人が冷静になって、生徒のこれまでとこれからを俯瞰して考えられるとよいと思います。我慢をするように伝えるのではなく、「先生はちゃんと君の良さやこれまでのがんばりを知っているよ」と具体的にほめたり、好きなことを聞き取り、よく聞いてあげて共感してあげたりして、安心させてあげることが大切だと思います。「陽キャのあの子ども、あなたも、よく頑張っている」と本人も友達も認められるといいと思います。わずか十数年での経験や人間関係の中で物事を考えています。ですから、大人にとって「ちょっとしたこと」で「もう終わりだ」「居場所がない」「死んだほうがいい」と思ってしまいます。生徒の気持ちに寄り添いながら、生徒が考えている「ふつう」とか「こうあるべき」を見直し、そうじゃなくていい道もあることや、つらい環境から離れてもいいことなども示し、視野を広げることができればいいと思います。子供たちは必ず成長し、大人になります。そのことを大人も子供も信じることが基本です。その信頼を元に、上手に休憩しながらより生徒の良さが発揮できる道を探すのが、がんばりすぎて疲れている生徒への支援のように思います。

【参考】飯村周平『高校進学でつまずいたら「高1クライシス」を乗り越える』ちくまプリマー新書
鴻上尚史『君はどう生きるか』講談社

群馬県立館林高等特別支援学校 専門アドバイザー 中島 里美
〒374-0046 群馬県館林市上三林町197番地
Tel 0276-71-1000
mail : kankoutoku-snes@edu-g.gsn.ed.jp
ホームページ : <https://kankoutoku-ses.gsn.ed.jp>

電話相談、メール相談、
来校相談、訪問相談、
受け付けています。
お気軽にどうぞ。